

あなたは「不言実行」派？ 「有言実行」派？

「不言実行」という言葉があります。反対に「有言実行」という言葉もあります。あなたはどちらのタイプですか。また、それはなぜですか。

「不言実行」は「あれこれ言わず、黙ってなすべきことを実行すること」という意味です。「目標やがんばっていることを他人には告げず、黙々と自分の目標のために努力する」というイメージもあり、そうすることが日本人の美德と考える人もいます。

「有言実行」は、「自分の目標を周囲の人に宣言し、言ったことは責任をもって必ず実行する」という意味です。宣言をすることで自分とまわりの両方からのプレッシャーを受けることにもなりますが、周囲の人が実現の手助けをしてくれるという利点もあります。実は本来「不言実行」の方が先で、「有言実行」はそれをもじって後から作られた言葉だそうです。



元卓球選手の福原愛さんは、日本代表として国内や国際大会で活躍しました。小さい頃からマスコミに「天才卓球少女」として取り上げられましたが、実は「努力をすることの天才」と言われるほどの努力家です。15歳でアテネオリンピックに初出場、3度目のオリンピックとなるロンドン大会出場をめざしていた2011年3月、あの東日本大震災が起きました。

彼女は宮城県仙台市出身で、小学校4年生まで仙台市で過ごしました。地震と津波によって被災した故郷に、自分は何ができるのだろうと、悩んだそうです。そして、自らスポンサー企業に呼び掛け、食料や飲料水、衣類などの支援物資を集め、それに励ましのメッセージを添えて贈ったそうです。被災地を訪問することについても、「自分が行くことで、逆に迷惑を掛けるのではないかと迷った末、「少しでも励ましになれば」と考え、震災から2か月後に仙台市の避難所になっている施設や小学校を訪問したそうです。訪問先での歓迎振りは、「思い切り笑ったのは、震災後初めて」とお年寄りが語るほどの盛り上がりでした。



彼女はその時集まった小学生に、ロンドンオリンピックでメダルを獲って帰ることを約束しました。つまり、自分の目標を表明したのです。このことを契機に、更に努力を重ねました。そして、翌年のロンドンオリンピックの団体戦で3本柱の一人として活躍、見事銀メダルに輝いたのです。小学生との約束が、オリンピックでのメダルへの原動力になったことはまちがいありません。それまでは、「オリンピックは夢の夢の夢の夢」と話していたのが、「オリンピックでメダルを獲る」という明確な目標に変わったのだと思います。目標を口にするのは、恥ずかしさがあったり、できなかったらどうしようという不安があったりと、勇気のいることだと思います。あえて宣言することは、目標の実現に向かって大きく一歩踏み出すことなのかも知れません。

みなさんは、今どんな夢や目標をもっていますか。そして、それを実現するためにどうしようと考えていますか。



